

公 表

第30回 技能グランプリ「貴金属装身具」職種競技課題

※ 材料に示す支給材料を用い、競技課題図に示す作品を製作する。

1. 競技時間

10時間（第1日 7時間 第2日 3時間）延長時間なし

2. 注意事項

- a. 材料は競技用として支給された材料を使用し、それ以外は認めない。
- b. 使用工具は、基本的に持参工具一覧表で示した以外使用してはならない。
- c. 持参した工具等は、競技開始前に競技委員の確認（点検）を受ける。使用を認められない工具は使用してはならない。
- d. 課題作品のために改造した書き板（テンプレート）、特殊な加工を施した工具類、また競技前に作製した展開図、案内図などは使用禁止。但し、競技中に製作したものは除く。
- e. 競技中は、安全に作業できる服装を着用し必要に応じて保護具を装着する。
- f. 競技中は、競技者間の工具類の貸し借りを禁止する。
- g. 競技中は、競技者間同士及び見学者、家族、友人等との会話は禁止する。（厳守）
- h. 競技中は、指定した場所以外での喫煙は禁止する。
- i. 薬品類の取扱い及び処理については、競技委員及び補佐員の指示に従うこと。
- j. 競技終了時間前に作業を終了した人は、競技委員に終了したことを伝えた上で作品を提出し、片づけを行わず速やかに競技エリア外に退出し待機する。
- k. 競技委員より競技時間終了の合図があったら、直ちに作業を止め作品を洗浄した上で、指定された場所（補佐員）に提出する。
- l. 競技終了後、競技委員の指示により、残り地金（異物を全て取り除く）と残りのろう材をそれぞれに分けて返却し、会場の工具及び各自持参工具の片付けを速やかに行うこと。
また、片付けが終了するまでは競技者間の会話は控えること。
- m. 支給材料を標準消費量（減り）よりも多く消耗した場合は減点の対象となる。
消耗した量または残り地金への異物混入の状態により其々減点される。
(異物：折れたのこ刃・ゴム・耐火材の破片、研磨剤、紙、木片等)
- n. 禁止事項に対し競技委員より注意されないよう競技に臨むこと。
- o. その他、競技委員より指示があった場合は、その指示に従うこと。

公 表

3. 貴金属装身具職種 競技課題仕様

- a. 競技課題図を正確且つ慎重に読み取り、ペンダントとして左右バランスのとれた美しい作品を製作する。
- b. ろう付箇所は精密に摺り合せ、ろう材の過不足がないようにする。
- c. 寸法を指定された箇所は、それぞれの許容差内に仕上げる。
- d. A 部(外枠上部)は、支給された $t1.3\text{mm}$ の板材を使用し、課題図に示すように加工し、程よい大きさのメレダイヤモンド(合計 36 個)が 容易に彫り留めが出来るように下穴を開ける。下穴の上面はドリルやカッター等で綺麗に面取りをし、裏面は全て裏取りを施す。
- e. C 部(エメラルドカット上部石枠、爪)は、支給された $t1.3\text{mm}$ の板材を使用し、C 部(下部石枠)は支給された $t1.0\text{mm}$ の板材を使用し、課題図に示すように加工する。C 部は A 部との接点 4 箇所をろう付けする。
- f. B 部(リボン状)は、支給された $t1.0\text{mm}$ の板材を使用し、課題図に示すように加工する、B 部中心の交差する部分は摺り合わせず、接点 4 箇所ろう付けする。B 部は A 部の接点 3 箇所と C 部の接点 2 箇所をろう付けする。
- g. G 部(A 部裏座)は、支給された $t1.0\text{mm}$ の板材を使用し、背面図に示す形状に加工し裏座とする。
- h. A 部と G 部の間に挟み込む支柱は、支給した $\phi 1.0\text{ mm}$ を加工して線材を課題図に示された位置(合計 16 箇所)にろう付けする。
- i. D 部(ラウンド石座)は支給した $\phi 1.0\text{ mm}$ を加工して、課題図に示すように 3 個作製しその天地に丸環をろう付する。
- j. E 部(ペアシェイプ石座小)は支給した $\phi 1.0\text{ mm}$ を加工して、課題図に示すように 2 個作製しその先端に丸環をろう付する。
- k. F 部(ペアシェイプ石座大)は支給した $\phi 1.0\text{ mm}$ を加工して、課題図に示すように 1 個作製しその先端に丸環をろう付する。
- l. 本体組立後、D、E、F 部のパーツを丸環でつなぎ、課題図に示すように左右バランス良くセットし、丸環はろう付する。
- m. 金性刻印及び競技者番号刻印(2 ケタ)を課題図に示すように C 部の裏面に打刻する。
- n. 作品は、工具や加工等による傷、加熱や酸処理による変色等を全て除去し、綺麗な 鏡面仕上げ(支給材本来の色彩に仕上げる)にして提出する。
- o. 鏡面仕上げについては、リューター(研磨材使用可)及び、ヘラを使用してよいが、研磨し過ぎにより形状がくずれないように注意する。
- p. C 部の石留めは課題図に示す高さと爪 あご 石枠は石に合わせて隙間なく石に合わせて石留めをする、爪の整形時にキュービックジルコニアを破損しないよう注意する。
- q. 作業手順は各競技者の裁量で進めること。